



Title	新年のごあいさつ
Author(s)	三橋, 昭男; 辻野, 守典; 福住, 弘雄 他
Citation	makoto. 1987, 57, p. 2-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86007
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

新年のごあいさつ



大阪府衛生部長

三橋 昭 男

あけましておめでとうございます。

皆様には、すがすがしく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

旧年中は、本府衛生行政に格別なご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年6月に就任以来、半年を経過しましたが、府民の皆様の保健衛生に対する期待の大きさに身の引き締まる思いをしております、その職責の重さを痛感しております。

さて、昭和62年は本府におきましては①近年死亡原因の第1位を占める「癌」を専門的に扱う施設として、がんの一次予防対策、検診から精密検査、患者管理、研修、精度管理等の一貫した機能を有する「大阪がん予防検診センター（仮称）」の開設。②府の基幹総合病院としての府立病院近代化整備事業のうち病棟部門のオープン。③厚生省・都道府県及び保健所をコンピューターオンラインで結ぶ結核・感染症サーベイランスシステムの開始。等、府民の医療ニーズに対応できる諸施策を積極的に推進してまいりたいと考えております。なかでも、貴協会にご尽力頂いている結核・感染症サーベイランスシステムについては、全国約4,000ヶ所に定点医療機関を設け毎週、水痘・百日ぜき・インフルエンザなど感染性疾患の患者発生状況を常時監視するもので、コンピューターを使用した全国調査としてはアメリカに次いで世界で二番目のシステムとなっております。各疾病の流行状況を迅速かつ的確に把握することにより、感染症予防対策に大きな効果が期待されます。

来たるべき21世紀の高齢化社会を迎えるにあたって、健康で健やかな人生を送るためには日頃の健康づくりが大切であり、保健・医療・福祉の連携を一層密にした施策の推進に努めているところでございますが、府民の皆様方の積極的な協力が何よりも肝要であり貴協会をはじめとする関係諸団体のお力添えを得まして保健衛生に係る諸施策を進めてまいりたく存じます。

最後になりましたが、本年5月に創立40周年を迎えられます貴協会の一層のご発展をお祈りしまして新年のごあいさつとします。

謹 賀 新 年



財団法人大阪防疫協会

理事長 辻 野 守 典

新年あけましておめでとうございます。旧年中は何かと御指導賜わり、厚く御礼申し上げます。本年もよろしく御指導御願ひ申し上げます。

さて昨年（10月17日）NHKテレビ、自然のアルバムで、奈良公園「ルリセンチョコガネ」の活躍する姿が放映されていた。「鹿」の糞をばくの宝物とでもいうように、自分の巣に運ぶ姿にほほえましいものを感じた。今頃は巣の中で宝物をまくらに休眠中なのだろう。「ルリセンチョコガネ」のように人目に触れることはないが、落葉の下では、このところ悪名高い「ダニ」の仲間も、自然の物質とエネルギーの循環に大活躍して来たはずである。自然の生態系を乱すことのないよう心したいものである。

昆虫（ダニは昆虫でないが）は人間の水晶時計や暦というものは持っていないけれども、その反面かなり正確な活動と休息の体内時計（概日時計Circadian Rhythm）を持って居り、1日に生ずる誤差は1日の明暗が時報となって、時間合せがおこなわれているという。体内時計の存在はなにも昆虫だけの専有物でなく、真核細胞生物には備わっているようで人間もまた例外ではないようだ。人間は何日も昼夜の別なく暗やみに置かれてテストされると、昆虫のように正確に活動と休息のリズムを示すことは出来ないだろうが、海外旅行で「ジェット・ラグ・シンドローム」を体験すると、やっぱり人間にも体内時計があったのかと気がつく。

J・タカハシ博士は生物の多くは「サーカディアン」と呼ぶ1日の生理的リズムが、一つ一つの細胞の中に刻み込まれていることを、ニワトリの松果体の細胞で証明したとある。「ジェット・ラグ・シンドローム」のコントロールされる日が近いかも知れない。21世紀には人間の睡眠時間（休眠期間？）も自由にコントロールされる日が来るのだろうか。また害虫等防除への手がかかりともなればと思う。

新年のごあいさつ



大阪市環境保健局長
福 住 弘 雄

新年あけましておめでとうございます。

昭和62年の新春を迎え、皆様方の御多幸と御繁栄を心からお祈りいたします。

平素は、本市の環境保健行政に格別な御尽力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、大阪市では2年後に、市制100周年を迎えますが、その歴史は市民の皆さんの大きな力に支えられ、今日の「大阪の町」づくりが進められてまいりました。

昭和65年には、「国際花と緑の博覧会」が、また、近いところでは、本年8月からは「天王寺博」など、大阪を名実ともに国際都市としてふさわしいまちに発展させるため、各種事業の推進に積極的に取り組んでいるところであります。

更に、今後21世紀に向けて、大阪を世界に開かれた国際的で、文化的な都市へと発展させるために、快適な住みよい町づくり、保健医療体制の充実、きめ細かい福祉の拡充等の事業を推進しております。

こうした事業を推進するうえで、快適な環境づくりは、都市整備の基盤となるものであり、その一端を担う環境保健行政は、重要かつ、基本をなすものと考えております。

そのためには、専門的知識と技術をもって着実な実績をおさめられている貴協会の御協力を得ることにより、はじめて公衆衛生の向上が達成されるわけでありまして、皆さんのお力添えに大きく期待しているところであります。

財団法人大阪防疫協会の皆様方には、今後一層の研鑽を積み重ね、貴協会が限りなく御発展されますとともに、会員の皆様方のますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

新年のごあいさつ



財団法人阪大微生物病研究会
理 事 長 深 井 孝之助

今年も忙しい中で新年を迎えることになりました。と申しますのは、旧年の春、始動致しました我が国の、全世界的、特に途上国の子供達に対する予防接種計画（WHOのEPI計画）への援助についてのお世話や、当財団の新らしいワクチン、水痘ワクチンとB型肝炎ワクチンなどの製造承認申請や、開発試験に取り組んでおりましたためであります。皆様の御支援で水痘ワクチンは今年春、世に送ることができることになりました。21世紀に生きる子供達への、心をこめた贈りものであると考えております。

B型肝炎ワクチンの方は、私達の遺伝子工学による最初の製品となるものでありますので、他所のものとは一味違った特長あるものを、と当財団の観音寺研究所で開発陣が、文字通り日夜努力を続けております。一方当財団の百日咳ワクチン（新無細胞型ワクチン）は、スウェーデンにおける野外臨床試験を通じて、WHOから世界最高の品質と認められ、広く世界中での使用が考慮されております。こうした状況でありますので、忙がしいなどとは言って居られません。有難いことだ、と心から思っています。

しかし、困難もますます大きくなって参りました。曰く円高、曰くインフルエンザ集団接種に対する世上の批判、などなど。研究開発も胸突き八丁にかかり、瞬時の油断も許されません。まさに「分進日歩」の現状にありますので。

私どもの財団の使命は、常に「国民の保健を守るには何が最善なのか」を追究することにあります。どんな困難に直面致そうともこの一点では妥協することは許されません。今年も突進しなければならぬ、と当財団の全員は覚悟を決めております。何卒従来にかわりませず御指導御鞭撻下さいますように。我々の天職を通じて、皆様の御恩には必ず報いさせて戴きます。



新年のごあいさつ

堺市衛生部長

高橋 月郎

新年あけましておめでとうございます。旧年中は本市保健衛生行政に多大のご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年5月には「都市の未来を緑に託して」をテーマに、全国植樹祭を盛大裡に、広く市民の参加のもとに開催いたしました。これを契機に全市民手を携え、「みどりのまちづくり」の輪を広げ、快適で住みよい環境づくりに向け、整備促進に努めているところであります。

人生80年時代の到来、高齢化が急ピッチで進むなか中高年齢期をいかに健康に過ごすかが重要な課題であり、壮年期からの健康づくりや疾病の予防、健康管理に対するニーズも増加しつつあります。

本市では、2年後に迫った市制100周年をインパクトに、来るべき21世紀に備え、調和と風格のある都市めざし、「市民の生涯をつうじる健康づくりの推進」のもと各分野における諸施策を積極的に展開しております。本年は、昭和38年に建設以来その後の事業の増大等により狭あい化の著しい鳳保健所の移転改築に着手し、地域住民の健康ニーズに応えるべく保健所機能の充実を図ってまいりたいと考えております。

国・地方を問わず財政事情は厳しい状況にありますが、将来展望を踏まえ、市民のライフサイクルに適合した健康づくりを推進してまいり所存でございます。どうか一層のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

貴協会におかれましては、従前にもまして生活環境の分野でのご尽力を賜りたいと存じます。

最後になりましたが、皆様方のご健勝と貴協会の益々のご発展を祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。



新年のごあいさつ

阪急電鉄株式会社

運輸部長

奥谷 武彦

新年あけましておめでとうございます。

昭和62年の新春を迎え、皆様方のご多幸とご繁栄を心からお祈りいたしますとともに、大阪防疫協会の皆様には、平素より駅・車両の美化・衛生につき大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

さて、穏やかな新年を迎え、阪急沿線の各神社とも初詣のお客様で賑わっており、真に結構な事と思っております。当社でも毎年元旦には運輸部の管理職全員揃って西宮車庫構内にお祀りする稲荷総社にお参りし、続いて宝塚線の服部天神、京都線の長岡天神と沿線の神社に詣で、一年の安全輸送と社業の発展を祈念いたします。これを社内では、俗に「三社詣で」と称し、すでに20年来の恒例となっております。この科学万能のハイテク時代に、管理職打ち揃っての神社詣ででもなかならうと言う向きもおられるでしょうが、私達の様に、多くのお客様の生命と財産をお預りしながら日々の輸送に当たっている者としては、日頃より出来得限りの対策・施策を講じ安全輸送の確保に努力しているとは言え、やはり昨年の三原山の例を出すまでもなく、災害や安全と言う物については、最後の一线に於て人事を越える天地宇宙の自然の力の支配を免れることはできず、この力に畏敬を抱き祈らざるを得ないという面があるのです。私個人としても、元旦の清々しい空気の中で無事新年を迎えられた事を感謝し、謙虚な気持ちで新年の誓いを神仏の前でたてると言う日本の初詣の習慣はすばらしいものと思っており、当社の「三社詣で」の伝統を今後も継続してゆきたいものと思っております。

最後になりましたが、昨今お客様のニーズの高度化に伴い、駅・車両の美化は旅客サービスの一環として増々重要性を加えております。このような折から貴協会の皆様方には本年も当社業務に対する絶大なご協力をお願いして、新年のごあいさつといたします。



新年のあいさつ

南海電気鉄道株式会社

鉄道事業本部運輸部長

清 林 義 勝

あけましておめでとうございます。

平素は私共の駅、車両の清掃に大変お世話になっております。厚くお礼申し上げます。

運輸部へ赴任して半年経過しやっと周囲の物が見えるようになってきましたが、制服制帽の重さがズシリと感じている毎日です。

さて当運輸部では、昨年「駅を美しく」という年間目標を樹て、鉄道の玄関口、地域の窓口を美しくすることに努めてまいりました。

小さなゴミ、吸殻を拾い集めることから始めました。

駅のコンコースから線路へ、更に車内へ、身の回りの職場へと広げました。

周りの環境が美しくなると、服装や身だしなみが乱れていると、とても気になってきました。言葉づかいや立ち居振る舞いがよくなりました。

あいさつや笑顔がごく自然に出てきました。

そして規律が守られるようになってきました。接遇がよくなってまいりますと、お客様から喜びの声がきこえてきました。そして職場が明るく生れ変わろうとしております。

お金をかけて美しくすることもやっておりますが、それ以上に大切なのは、まごころをこめてサービスを提供することだと思います。

決して満足のできる成果は得られてはいませんが、一步一步確実に、小さなことから実行していきたい。

今年62年は国鉄民営分割化の年であります。

阪和線は私共にとっては強力な競争相手であると共に地域の足を守り又、文化を形造る上で大切な役目を分ち持っております。

今後とも適正な競争と協調の路線を歩んでいきたいと思ひます。

又今年は関西国際空港のつちおとの響く年でもあります。そのためには、先ずお客様に愛される姿勢を作らなければなりません。今年も又小さなゴミ拾いからスタートしよう。



新年のごあいさつ

関西テレビ放送株式会社

施設管理部長

奥 野 清 治

明けましておめでとうございます。

月日のたつのは早いもので、阪神タイガースの優勝に沸いてから一年余、大阪の街は相変らずの円高不況下に目標を失い、右往左往するうちに気がついたら昭和62年を迎えていたという感じです。

年の始めに誓った「今年こそは」の意気込みもどこえやら、いらいらだけが残ったように思うのは私だけでしょうか。

日本経済が拡大するにつれての地価の高騰、各種公害、交通渋滞、そして石油危機後のエネルギー問題、世界経済不況からくる貿易摩擦と財政赤字問題など、難問が山積するが、それらは、解決されるどころか時と共に忘れられ、いや他人事のように扱われている。

これは技術革新や情報化のテンポが速すぎるためなのか、世界一の金持ちになったためか、日本人特有のものか、理由はよくわかりません。

しかし、私は「今年こそ」、思いきった道路対策を立て、いらいらの一つである交通渋滞を解決してほしいと思うのです。

円高になる直前、私はカナダ、アメリカ及びヨーロッパ6カ国を訪問する機会を得ました。その時、痛切に感じた事は道路、下水道、住宅などの社会資本の差と、所かまわず目先の利益を求め、逃げだす道をさぐりあて、器用に対応する日本人の猛烈ぶりでした。

その時の反省として、無資源国日本が生きていくには、先ず、世界の資源を荒す体質から一日も早く脱却し、技術開発で世界に貢献して信頼を得る以外にない。力を過信し、勝手気ままに世界市場を荒すようでは、いつまでたっても二流国家であると痛感しました。

ところが、最近の情報によると金融、不動産まで外国に進出して、益々激しくなっているようです。この力を社会資本の充実にあてられないのでしょうか、高齢化社会までに。

おわりに、貴協会の益々のご発展をお祈りして、新年のご挨拶といたします。